湯始め、湯終わる。

日本の誇り、風呂文化

日本の“お風呂文化”は形式が変化するも室町時代から続く。
またこの文化は日本固有のものである。

フィンランドのサウナ文化やイタリアの銭湯など裸の付き合いは世界各国で見ることができる。
しかし、日常的に湯に使って日々の疲れを落とすという文化はこの国特有のものである。

湯の感覚

湯に使っているときに感じる感覚を新しい言葉に表現にした。

湯始める：
1 日の始まり、朝風呂の時の感覚を表現している。

湯終わる：
1 日の終わりにお風呂に入って体の疲れがほぐれて体が伸びていくような感覚を示している。

：
“湯始める”、“湯終わる”を構成する要素は 3 つある。
いずれも建築が存在しているから発生するので建築的手法である。

①暗闇に射す（くらやみにさす） 形
全体的には暗い空間であるが、そこに空間全体に対して 10%ほど、またはそれ以下の光が差した際の幻想的な様子。
②湯音がとろめく（ゆおんがとろめく） 動
風呂場で水滴が落ち、音が反響し、耳に心地よい音が残ること。
③けむられる 動
湯気が身体中を巻きつく感覚のこと。

①暗闇に射す

②湯温がとろめく

③けむられる